

# 鬼石中だより

藤岡市立鬼石中学校  
令和6年度学校だより 第4号  
令和6年7月19日  
文責：校長 五十嵐

## \* 1学期大変お世話になりました \*

本日1学期の終業式を迎えます。4月に校長として着任して以降、あっという間の4ヶ月でした。学校運営にあたり保護者、地域の皆様からは様々なお支援を賜り、心より感謝申し上げます。皆様のお力添えにより、教育活動の充実を図ることができました。登下校の見守り、あいさつ運動、読み聞かせ、英語検定監督、社会人に話を聞く会、部活動指導等、様々な場面でご協力をいただきました。改めて御礼申し上げます。引き続き、家庭、地域、学校の協働により、健やかな生徒の育成を図ってまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

## \* 校内陸上記録会 6/12 \*

「駆け抜ける 今日の主役は俺たちだ ~協力、全力、絶対勝利~」のスローガンのもと、鬼石中学校・校内陸上記録会が開催されました。競技なので順位はつきませんが、それ以上に大切なのは自分自身の記録との戦いです。当日は、自己記録の更新に向け生徒一人一人が全力で競技に臨みました。スローガンのとおり、全員が今日の主役になれるよう全力を尽くすことができ、その姿は美しく輝いていました。記録会は団対抗戦でしたが、こちらは「鬼石中の勝利の方程式(裏面をご覧ください)」を思い出して、各団とも絆やチームワークで戦いました。応援する姿や競技後にお互いを称え合う姿に子供たち同士の強い絆を感じました。スポーツマンシップあふれる姿に拍手です。

総合優勝は青桐団でした。桜団、榊の木団は優勝を逃しましたが、団体競技の綱引きが全団勝敗同率で引き分けになったこともあり、差は僅かでした。観戦した私たちに感動を与えてくれた子供たちの健闘を心から称えたいと思います。PTA本部役員さんをはじめ保護者の皆様にも多数来校いただき、声援を送っていただきました。ありがとうございました。



## \* 第46回少年の主張藤岡市大会 6/29 \*

6月29日(土)に藤岡市民ホールで令和6年度第46回少年の主張藤岡市大会が開催されました。本校からは学校代表として 〇〇さん(3年)、 〇〇さん(2年)が参加しました。

各校から選ばれた代表生徒の発表は大変聞き応えがあり、充実した3時間を過ごしました。鬼石中の2人も大変素晴らしい発表でした。



## \* 西毛地区中学校水泳大会 7/6 ・藤岡多野吹奏楽祭 7/7 \*

7月6日(土)に群馬県中体連夏季大会の前哨戦となる西毛地区水泳大会が高崎の浜川プールで行われました。本校から出場した さん(3年)が50m自由形で2位、100m自由形で3位にそれぞれ入賞し、県大会出場を決めました。



7月7日(日)にはみかぼみらい館で、第37回藤岡多野吹奏楽祭が開催されました。鬼石中吹奏楽部のメンバーは西中学校との合同バンドで「ディズニー・ブロックバスターズ」と「モンセラット」の2曲を披露しました。コンクールに向けて順調な仕上がりでした。

## \* 1学期校長講話のまとめ \*

1学期に校長として生徒に話してきた「十文字講話(話のタイトルを十文字でそろえました)」の要点をまとめました。子供たちの成長を願い、毎回テーマを決めて伝えてきました。今後も折に触れて繰り返し発信し、子供たちに意識化していきたいと思います。各家庭でも話題にしてください。

### 「クイックリアクション」(4月朝礼)

クイックリアクション=即実行。反応を早くすれば、早く物事が進む。早く物事が進めばよい結果に結び付く。また、反応すべき対象に対して敬意を払っている証拠にもなる。そのことにより、相手からの信頼、信用を勝ち取ることができる。

### 「日常の五心を徹底する」(4月朝礼)

①ハイという素直な心、②すみませんという反省の心、③おかげさまでという謙虚な心、④私が出ますという奉仕の心、⑤ありがとうという感謝の心。こうした基本的な態度が身についたときに、お互いを認め合い、信じ合い、頑張り合うことができ、助け合える仲間ができる。

### 「責任を持って行動する」(5月生徒総会)

「責任」は英語でresponsibility(「respons返す=果たす」「ibleできる」が語源)。したがって、責任を持って行動するとは、鬼石中生徒として、当然しなければならないことに、きちんと対応(レスポンス)する(決まったことを守る、と約束をするだけでなく、それを果たせる、実行できる)ことである。

### 「聞きかたの質を高める」(5月朝礼)

「聞く」には3段階ある。①聞いたことをもう一度言える、②聞いたことができる、③聞いたことに対して自分のアイデアが言える。「聞く」とは、聞いたことを「言う」つもりで聞くということである。更に、「聞く」ときは、「やる」を前提に聞くこと。

### 「鬼石中しぐさのすすめ」(6月朝礼=人権集中学習校長講話)

学校は人口密度が高い場所であり、色々な人との関わりがある。だから、江戸しぐさの精神の基づいた行動を、つまり、相手を思いやり、お互いが気持ちよく過ごすための行動を、「鬼石中しぐさ」として鬼石中生も自然にできるようにする。

### 「鬼石中の勝利の方程式」(6月中体連夏季大会壮行会校長あいさつ)

「心×(技+体+智)=結果」である。単なる4要素の足し算から結果が出るのではなく、「心」だけかけ算となっている。つまり、技術は未熟であっても、また体力や知識がもう一歩でも、心が一流であれば、好結果が期待できる。この積の意味を考えて、勝負に臨む心を準備する。

### 「力を発揮できる人とは」(7月朝礼)

自分の力を発揮できる人には、三つの共通点がある。①どんな些細なことでも前向きに、楽しそうにやることができる「ひたむきさ」、②人に対する感謝の気持ちや敬愛の念にあふれている「謙虚さ」、③失敗を人生の糧にできる「前向きさ」。